

会 議 要 旨

会議名	第2回町田市薬師池公園地域魅力向上計画懇談会	
開催日時	2013年10月28日〔月〕午後2時00分~午後4時00分（会議）	
開催場所	町田市役所 10-3会議室	
出席者	委員	池邊 このみ（会長）、秋山 綾、藤根 義信、吉田 敦、徳尾 和彦、岩澤 正、齊藤 喬、清水 滉常（8名、敬称略）
	未来づくりプロジェクト	企画政策課3名、障がい福祉課2名、産業観光課1名、農業振興課2名、北部丘陵整備課1名、道路管理課1名
	事務局	公園緑地課長、公園管理担当課長、公園緑地課6名
公開・非公開	公開5名	
傍聴人数	1名	
議題	「七つの国」の設定及び事業展開について	
次第	1. 開会挨拶 2. 事務連絡 3. 「七国・薬師四季の丘」の地域統一名称について 4. 統一名称からイメージする各施設の国名とコンセプトについて 5. その他意見 6. 次回の日程確認	
資料	1. 第2回懇談会 次第 2. 第1回懇談会 会議要旨 3. 薬師池公園周辺地区観光資源調査業務 報告書 4. 薬師池公園周辺地区基本構想作成業務 報告書	

1. 開会挨拶

- ・会長より挨拶

2. 事務連絡

- ・事務局より会議の公開について報告。
- ・傍聴者の入室について、委員全員の了解を取り、傍聴者入室。
- ・事務局より配布物の確認。議題の説明。

3. 「七国・薬師四季の丘」地域統一名称について

〈発言〉

（委員）

- ・「七国・薬師四季の丘」の名称は、庁内では定着しているのか。

(事務局)

- ・対外的には出ていない。庁内でも、全体としては定着していない。

(委員)

- ・対外的には薬師池公園の名で広まっている。
- ・最初の言葉に薬師池公園を出した方がいいのではないか。
- ・七国を知ってる人や、正しく読める人は少ない。

(会長)

- ・薬師池といえば町田で通じるくらい有名なため、そこに四季の丘が来るのはどうか。

(委員)

- ・丘というのは、この地域ブランドを下げてしまう。山と丘は全く意味が違う。
- ・第一回の懇談会で鎌倉古道などを散策した際、七国山からスカイツリーが見えると聞き、認識不足だったが町田にもいいところがあると知った。PR 不足を感じた。
- ・薬師池と七国山は別物。七国山の薬師池というイメージが無い。

(会長)

- ・七つの国を設定しているが、七国山のところは国名が無い。一番頭についているのにエリアがない。本当にこれでいいのか。

(委員)

- ・七国山を知らない人が多い理由としては、七国山は七国山緑地保全地域として東京都が指定した場所であり、観光地でもなく、公園でもない。  
だからこそ、町田の観光マップや地図などにも、七国山が記載されていない。
- ・七国山は昔から有名な山であり、その麓一帯を、多摩と町田の原風景として残したいため風致地区として指定した。
- ・七国山や鎌倉古道は薬師池と同等に有名である。
- ・「七国」は、「七つの国」をイメージしているのか、「七国山」をイメージしているのか、分からない。

(会長)

- ・町田らしい住宅景観が残っているのは、風致地区が掛かっていたから。そうでなければ、町田らしい住宅景観は失われていたはず。  
散策していても風情がある特有の景観である。
- ・七国という言葉キャッチフレーズとして使うとしたら、地名としての尊厳を尊重し、昔からの歴史のある名前は正しい使い方をするのは大切。

(委員)

- ・第一回の散策では、里山というよりも、町の中に緑が残った新しい緑の空間として感銘を受けた。里山という古い言い方にしてしまうのは勿体ないと感じた。

(会長)

- ・里山については、人によって色んなイメージがある。  
七国山のような丘陵地を里山と言ってしまうと、外の人から見ると違う。逆に、イメージこそがこの地域の特徴ある景観であり、全体的な魅力ではないか。

(委員)

- ・町田市として大きく取り組んできたことで、薬師池公園は名園として選ばれている。自然的に見ると、水は七国山から降りてきて薬師池にくる。自然がひとつになっている。そういう点から見ると、七国山という名前は大切。

(会長)

- ・意見をまとめると、「薬師池」、「七国山」と、池と山は入れたほうが良い。
- ・薬師と七国の順番はどうするか。全体的な広がりでは七国があって、薬師がある。しかし、知名度では薬師があって七国がある。意見が分かれるところ。

(委員)

- ・コピーライティングの世界で、分かりやすさが大切。一定の論理性も必要である。
- ・「丘」はブランドを下げる。丘と山は別である。
- ・七国山、薬師池というのはちゃんと付ける。また、七つの国制度もブランドを壊す。国でなく里の方がいいと思う。  
ぼたんの里、民権の里など中間の地域を地区にしてまとめるのは、面白いひとつのアイデア。
- ・薬師池だけだと分からないが、花、里など特徴になる言葉を持ってくる。
- ・七つの国にした時、七国山緑地保全地域を入れるのか、入れないのか。絵には入っているが、国の中には入っていない。  
ここは従来、観光地ではないから地図に載ってない。七つの国、里にしてしまうと、除外していることになる。入れるなら八つの里の方がいい。
- ・ローマ字で「SATOYAMA」として、「薬師池・七国山」としたら良いと思う。
- ・七つの国と入れてしまうと、国が増えた時のためにも里にしたほうがいいのではないか。
- ・里を使うのは反対。里山は山もあり、里だけではない。地元の人も里と言われてどう思うのか。
- ・7つというのは、重要なコンセプト。七国山でやる以上、捨てるはいけない。こだわった方が良い。

(会長)

- ・地域の生態系にとって、この緑地保全地域の占める割合は大きい。これを取り除いて全体のゾーンの在り方があるというのは好ましくない。

(委員)

- ・保全地域も観光地に入れようとするとう東京都は難色を示すのではないか。
- ・七国山の中を通っている鎌倉古道は歴史あるもの。その他のアスファルトで整備されているのは、観光用の鎌倉古道である。しかし、地域の案内では鎌倉古道はあまり明示されてない。

#### 4. 統一名称からイメージする各施設の国名とコンセプトについて

(会長)

- ・今まで「～園」と呼ばれていたものが、「～国」となることで利用者にとって親しみやすくなるかどうかがある。また、薬師池西公園は、これから花の街づくりを目指しているが、木の国

となっている。木の国は風の国にして林間アスレチックでもよいのでは。

(委員)

- ・薬師池西公園は木がいいのか林がいいのか。

(会長)

- ・お花摘みといているのに、「木の国に行こうよ。」とは、言わない。

(委員)

- ・アスレチックの方が木でもいいかなという感じはする。
- ・子供がターゲットのところは、思い切ってカタカナを使ってもいいのでは。

(委員)

- ・これ以上、区域が広がることはあるのか？

(事務局)

- ・今のところ、広げる考えは無い。

(会長)

- ・一番難しいのは、光の国と木の国では。木の国と風の国はチェンジすればいいのではないか。
- ・子供の国みたいにしてはどうか。

(委員)

- ・こどもの国は、子どものためのランドということ。そういう意味で国というのを残すと、山というブランドもあるのに紛らわしくなってしまう。先程、里だとおかしいという表現があったが、おかしくは無いと思う。

(委員)

- ・実際にここを訪れたときの表示の問題も重要。子どもが見ても、どんな歴史があるかなど PR する。また、遊び場としての名称、ゾーンネーミングをサインとして子供も分かりやすく、覚えられることが重要。その辺の PR の度合い、表現の仕方が大切である。

(会長)

- ・これからの子供達のためでもあるし、それだけでなく、広く東京・神奈川の方も来る。

(委員)

- ・誘導のためのサイン計画も大切だが、七国山のイメージを壊さずに分かってもらうことが大変重要である。

(会長)

- ・皆さんこだわるのは、月、光の名称。木と風を交換するくらいではないか。
- ・この辺、事務局はもう1度考えてもらえるか？このままでは、若干同意が得られないのではないかと思う。七つの国という意図があるのは良いと思うが、それぞれのゾーンがそれに合わない、こじつけのようになってしまう。

(事務局)

- ・事務局の中でも同様な考え、意見もある。頂いたご意見を参考に検討していきたい。

(会長)

- ・薬師池地域全体の施設は都市公園法に該当するのか。七国山緑地保全地域は公園にはならないと思うが。

(事務局)

- ・今検討しているのは、薬師池公園、薬師池西公園、薬師池北緑地が都市公園法である。ダリア園やリス園等の施設は都市公園法の公園ではない。

(委員)

- ・七国山緑地保全地域の位置づけを明確にしないと。現実として、人がたくさん入ると手が付けられなくなるのではないか。

(会長)

- ・エリアとしても、保全地域がここにあるということを学ばば良い。観光というだけではなく、色々な形で遊べる地域。ゾーニングとしては、七国山を入れる以上、ゾーンとしては入る。しかし、里や、ランドなどの名前はここには付けない。あくまでも緑地保全林であり、法的にも、仕分けは事務局で出来ている。
- ・ゾーンの名称についても、7 という数をわざわざ入れるのは、計画のキャッチフレーズとして作られている。魅力向上にその言葉がポジティブに働くかであって、その名前で呼ばれなくても地域の魅力アップにつながり、七つの国という名前をつけたことがプラスになる。

(委員)

- ・何が目玉なのか。七つの国があるだけではなく、1つは目玉となるものを造っておかないと。今あるものを大きくするか、新たに造るか。

(会長)

- ・これだけえびね苑、ダリア園がひとつの町の中に揃っているところは、町田だけではないか。特にえびね、ダリアは珍しい。貴重な資源が町田にはある。

(委員)

- ・1つ1つの規模が小さい。極端に関東1位にすることはないが、もう少し本数や見栄えなど、全体のイメージでアピールできるようにならないか。

(会長)

- ・その辺は、事業内容として拡充していくのか？それとも今のまま名前だけつけて、運営はそれぞれにおまかせなのか。トータルでプロデュースする人間がいないと。
- ・専用のHPや情報発信のツールを作り、今日の開花状況や、イベント、おすすめ回遊プランなどがあると、トータルにした価値、相乗効果が生まれるのでは。
- ・一番の見頃がいつなのか。花を謳う以上、盛りは大切。
- ・毎週イベントを行い、やらない週がないようにしないと楽しみが少なくなってしまう。なるべく四季折々に分散して実施することが大切。

(委員)

- ・一方であまり人が来ては嫌だという意見もあるから、センター機能は分散することなく、集中させる必要がある。

(会長)

- ・事業構想の中に、センターハウスの機能と役割が書いていない。ファーマーズセンターとの役割分担なども。このゾーン全体の構想と、センターの周りに何を置くのか。
- ・来街者の予想をしていくとは思いますが、風致地区はある一定の品格の基に保たれてきた為、観

光化することによって品が悪くなったり、町田の道路環境の面から見ると、渋滞することが無いようにする必要がある。

- ・ゾーニングについて、花と農に親しむとあるが、えびねは花に入っていない。具体的なゾーンがある場合は余計に分かりにくくなる。花と楽しみだけにすると、他に楽しみはないのかとおかしな関係になってしまう。
- ・各施設、場所の連係、まとまりの有る分かりやすい名称にして頂きたい。
- ・今ある資源をどれだけ活用できるのか、連係が重要。

(会長)

- ・「薬師池」、「七国山」についてと、コピーライターに依頼することについては、事務局で再度検討して頂きたい。また、「丘」は辞めてもらいたい。
- ・本日の意見を参考に、国や里などゾーンの名前を事務局で再度検討して頂きたい。

## 5. その他意見

(委員)

- ・地域内周遊導線とは、どういうものか。歩くのか、トレインのことか。

(事務局)

- ・パークトレイン等で、交通手段は明確にはなっていない。
- ・既存の道路を用いて周遊できるようにする。

(会長)

- ・パークトレインと書くと、新たに電車でも走るのかと誤解を受けるため、(未定)のように記述しておく方がいい。

(委員)

- ・今後、現在の来園者数として 286,000 人増えるとあるが、目標は？

(事務局)

- ・2010年の調査で、年間69万人の来園者がおり、目標は年間100万人です。

(委員)

- ・費用対効果として、どれくらいの効果で増えていくかは算定して数値を出す必要があると思う。

(委員)

- ・高齢化が進んでいるため、歩くことが出来ない人もいる。整備されるならば、公園内に循環バスが走ってもらえると、自然に訪れる人も増えるのでは。

(会長)

- ・ぼたん園、えびね苑が一番遠く、かつ比較的高齢者の方にもなじみ深いのに、通るルートがない。ターゲットが明確になれば、地域内交通もどういうふうに必要なのかが分かってくる。

## 6. 次回の日程調整

(事務局)

- ・第三回懇談会の日程は、2013年11月18日(月)午前10時00分から2-2会議

室でお願いします。

以上